やさしく　かしこく　たくましく

山本小学校だより

令和７年７月１７日
Ｎｏ．５
文責　宮村　まり

城ノ越太鼓発表会　ありがとうございました

７月１１日（金）の、城ノ越太鼓発表会、学校保健委員会、学級懇談会へのご参加、ありがとうございました。今年度は、暑さが尋常ではなく、果たして体育館で発表会が開催できるのだろうか…と心配で、様々に対策を検討しましたが、当日は、天が味方をしてくれて少しばかり涼しい気候となり、無事開催することができました。子どもたちの城ノ越太鼓の演奏には、「元気が伝わってきた」「頑張っている姿に感動して涙が出そうだった」等、子どもたちの頑張りを認める感想をたくさんいただき、子どもたちの充実感と自信につながったと思います。今年度は、保護者の皆様に加え、祖父母・地域の皆様、卒業生、山本保育園の年長さんと先生方等、たくさんの方が見に来てくださいました。城ノ越太鼓に込めた思いが伝わったと思います。城ノ越太鼓とそこに込めた思いは、伝統として、これからも大切に守っていけるといいなと願います。

いじめ根絶集会　嫌な思いをし続ける人がなくなるために考えよう

７月１日（火）に、いじめ根絶集会を開きました。その集会の中で、心の痛みについて話を聴き、考える機会を設けました。悪口や仲間外れ等を例に出して、心に矢がささって心が痛くなることや、そんなときどうしたらいいかを考えました。山本小は、全校児童・保護者同士が、互いに名前を知っていて関わる機会が多い環境にあります。また「山本小の良いところは？」と尋ねると、「全学年仲の良いところ」と答える人がたくさんいます。「いじめをなくそう」という取組も、ずっと続けています。しかし、「嫌なことをあった…」という人が全くいなくなることは、なかなかありません。どうしたらよいでしょうか？

いじめの定義は「当該者が一定の人間関係にある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」（文部科学省）です。いじめは絶対に許されませんが、一緒に過ごしていると、お互いの思いや考えが違うことから、けんかや言い合いで、つい相手を傷つける言動をとってしまうことや、場合によってはどちらの心も傷ついていることもあります。社会の中には、「そのくらい…」「いじめはなくならない」と考える人もいます。でも、**誰かが心に痛みを感じている状況をそのままにしていては、自分もきっと同じように傷つく日が来ます。対話して互いの気持ちを知り、改善できるところは改善し、悪かったところは謝って、関係を修復・改善することが、自分も相手も幸せに生活するために必要ではないでしょうか。「いじめ」をなくすには「いじめ」をしないこと**です。まずは「いじめ」を絶対にしない・許さない素地をつくる。**学校でもご家庭でも、普段使っている言葉や行動の中で、相手を傷つける言動や考え方をしていないか、振り返ってみることで、傷つけることがなくなっていく**のではないでしょうか。当事者同士で解決が難しいときは、第三者（先生やおうちの方、友達など）が「**適切な心のつなぎ役**」になってサポートすることが必要かと思います。